

教科名	理科	科目名	生物 I	履修クラス	1 年全クラス	
				担当者	柳下 信	
使用教科書		「高等学校 生物 I」・三省堂			履修単位数	2 単位
副教材等		「Let's Try Note 生物 I」東京書籍 「NEW PHOTO GRAPHIC 生物図説」秀文堂				

学習のねらい・育てたい力・目標	評価の観点・評価方法など
生物や生命現象に関する関心・探求心を高め、生物学的な探究能力を身につけさせる。生物の構造や種の維持などに見られる共通の法則性や多様性を学ぶ。実験を通し、その目的・方法の理解に努め、またレポートへのまとめ方を練習する。	様々な現象や法則性・多様性について理解できているか否か、定期考査を行い、評価する。実験・実習の毎に実験レポートを課し、実験結果についての考察が十分になされているか否かを中心に、実験レポートの提出状況・内容を評価する。

年 間 授 業 計 画			
月	予定時数	単 元	学 習 内 容 ・ 学 習 活 動
4 5	中間考査まで 1 2	細胞説と細胞の研究法	オリエンテーション、 ・顕微鏡の使い方、生物のスケッチの方法について ・マイクロメーターについて ・細胞の機能と構造
6 7	期末考査まで 1 4	細胞の機能と構造 細胞と酵素	細胞の機能と構造、細胞への物質の出入り ・生物体を構成する物質について ・細胞と酵素
9 10	中間考査まで 1 4	細胞の増殖と生物体の構造	細胞の増殖と分化 細胞分裂の実験 生物体の構造 いろいろな細胞（組織）の観察 ・植物組織の観察 ・動物組織の観察
11 12	期末考査まで 1 4	生殖と発生 生殖細胞の形成と受精	生殖の方法、減数分裂、花粉管の伸長の観察 ・無性生殖と有性生殖 植物の配偶子形成と受精、胚発生 ・重複受精について
1 2 3	学期末考査まで 1 6	動物の発生とそのしくみ	配偶子形成について 動物の配偶子形成と受精 発生の過程 ・ウニの卵の観察実験 ・卵の種類と卵割の様式 発生のしくみ ・カエルの卵の観察実験 ・カエル後期発生について

担当者からのメッセージ (授業の受け方・家庭学習の仕方・受験勉強の仕方等)
断片的な知識をただ蓄えるのではなく、それらを総合的にとらえたり、自然界の奥にある法則性を探究することにより自然を理解することが必要である。 何度も実験・実習を行うので、その意味・目的を理解し、主体的に取り組むこと。また実験後のレポート作成も重要な家庭学習である。自学・自習の一環としてしっかりと取り組むこと。